

概 要 報 告

| | |
|------|---------------|
| 実施期日 | 7月29日(火) 【午後】 |
| 部会名 | 小学校 図画工作部会 |

テーマ 『ものの良さを感じ取り、自らつくりだす喜びを味わう子どもを目指して』

提案概要

豊かに感じ取る力を育てることを重視し、児童一人ひとりの資質や能力の育成を図る学習指導と評価の工夫・改善が研究主題である。研究主題との関わりは、感じ取ったことを手などや体全体を働かせて表現したり、描いたりつくったりする活動を、[共通事項]と関連させる指導と評価の具体化である。

題材名「みてみて！ぼく、わたしのびっくりハット！」

学年 1年生

今回の提案では、児童の発達段階に応じて、自信を持って楽しみながら学習に取り組める題材を設定した。これまで子どもたちは、7月の「七夕かざり」、9月の「手でさわってかくのきもちいい」などの学習経験を通して作品を作り出す喜びを感じてきた。その経験を生かし、豊かな力を感じ取り、感性を働かせながら、それぞれの個性が豊かに表現できる題材として、今回の学習を行った。

質疑概要

- ・教師の見本を子どもに見せた時、見本の説明はしたのか？
→使っている材料や材料の使い方等、説明しながら見せた。

研究協議概要

①感じ取ったことや想像したことを豊かに表現するための指導法について

導入に対しての意見

- ・見本を出すタイミングをいつにするか、日々の授業で難しさを感じている。
- ・見本をかぶって先生が教室に入る導入も考えられる。子どもの作品作りに対する意欲を高めることができる。
- ・見本を提示するかどうかは、子どもの発達段階に応じて使い分けるほうがよいだろう。
- ・絵本を読み聞かせた導入が良かった。

材料に対しての意見

- ・1年生にとっては、材料の量が多かったと感じる。
- ・ねらいに沿って、材料の量や道具の種類を変えることが大切だと思う。
- ・自然物の材料を使う子が少ないということだったが、見本に自然物を使った帽子を増やした方がより自然物に興味を持ったのではないかと思う。

接着指導に対しての意見

- ・接着のいろいろな方法を、すべて教え込まずに作品作りをさせても良かったのではないか。
- ・1年生の4月から、いろいろな接着方法を経験させて、長いスパンで指導していくことが大切ではないかと思う。
- ・のりを使っている子どもに対しての声掛けの仕方がとても良かった。

その他の意見

- ・高学年でこの題材をするなら、土台から子どもたちに作らせるとおもしろい作品ができそうだ。
- ・ねらいに沿った1年生にとってはとても良い題材だ。
- ・豊かな表現をさせるためには、造形遊びをたくさん経験させることが大切だ。
- ・本物の木に触れさせたり、自分が育てた野菜を目の前で描いたりすると、子ども達の表現が豊かになる。
- ・余った自然素材は、他の単元でも使えるのではないか。

②毎時間における個々の児童の意欲や製作過程を評価する方法について

- ・評価の具体的な方法としては、最後にファッションショー的なことをして、子ども達に何かを発表させる方法があるのではないかな。
- ・机間巡視をして、具体的な様子をメモしていく方法がある。
- ・ねらいをはっきりさせていると、作品作りの過程が評価しやすい。
- ・友だちや自分の作品の良い所を言い合えると良い。
- ・製作の途中で、子どもの作品を紹介したり、良い所をほめたりすると良い。
- ・保護者の了解を得て、ビデオをとって、評価する方法もある。
- ・ねらいが達成できない場合は、ねらい設定が適切でなかったか、教師の授業の組み立てが悪かったことになるのではないかな？
- ・途中経過をカメラにとって、後からじっくり評価する方法もある。
- ・意欲のある子どもだけでなく、他の子どもへの手本の意味も込めて、ねらいを達成している子の作品を取り上げて、みんなの前で褒めることが大切になる。
- ・子ども同士に相互評価をさせることも評価として大切である。
- ・教師の声掛けや、子ども同士の声掛けが大切である。
- ・低学年の子には、接着の技術をしっかりと教えて、評価の低い子を出さないようにしてあえることも大切だ。
- ・作品作りの途中で、子ども同士の良い所を評価すると子どもがやる気をだす。
- ・図工の三段階評価は難しいし、正直そこまでの評価はいるのかと考える時も多い。

まとめ概要

・テーマについて

豊かな力を感じ取り、感性を働かせてということを考えて今回の題材を見てみると、この題材はとても良い題材だったのではないかな。材料を集める時、見本を見せる時、材料に触れる時、作っている時、友だちの作品を見ている時、どの場面でも、子どもたちは、この題材を通してものの良さを感じることができたのではないかな。

・接着などの技術について

綿などがつきにくい時、子ども達はビニールに入れてそれを土台につけることをしていた。つかない経験をあえてさせることも必要ではないだろうか。やまとのりを使う練習をするには、旅行会社のパンフレットを使うのが良い。

・評価について

教師は、たくさんの材料を使ってほしいというねらいをたてたが、いろいろな材料を手にとった結果、たった一つの材料にこだわって作品作りをしていた児童がいた。その子の評価をどうするのか、悩むことが評価をつける時に大切なことではないかな。子どもに寄り添って、子どもの視線から製作過程を見てあげることが大事になるだろう。

子どもの作品作りに関しては、結果としての完成作品だけを評価するのではなく、たとえば、造形遊びの際には、途中経過をカメラにおさめて、その様子を評価するなどしていくことが大切だ。また、作品の仕上がりは、教師から見た仕上がりだけでなく、子どもが仕上げた満足感を認めてあげたい。

高学年を指導する場合は、先に評価の規準を子ども達に伝えておいて、ここまでできたら評価Aなど決めてから作品作りさせる方法もある。